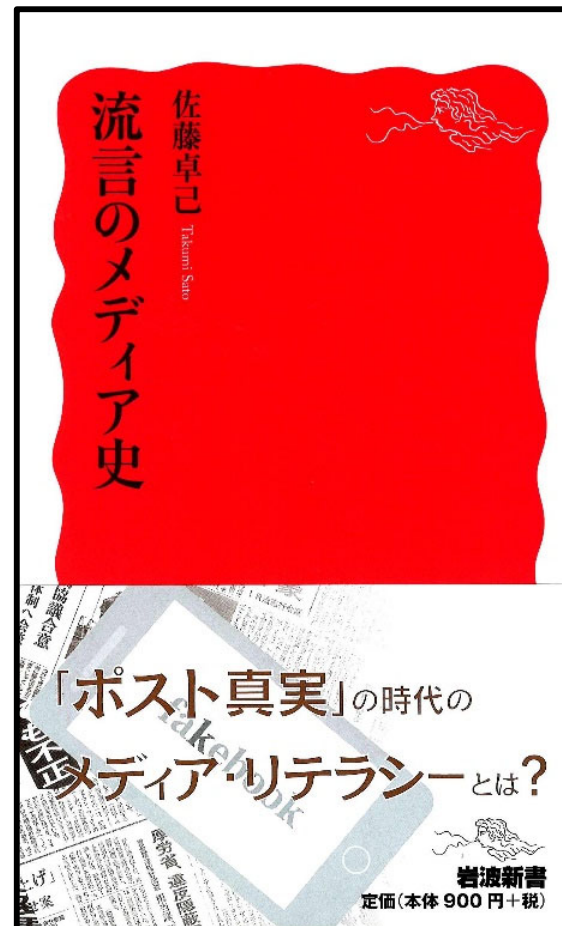


# ネガティブ・リテラシーの効用

## — あいまい情報のメディア学 —

京都大学大学院教育学研究科 佐藤卓己

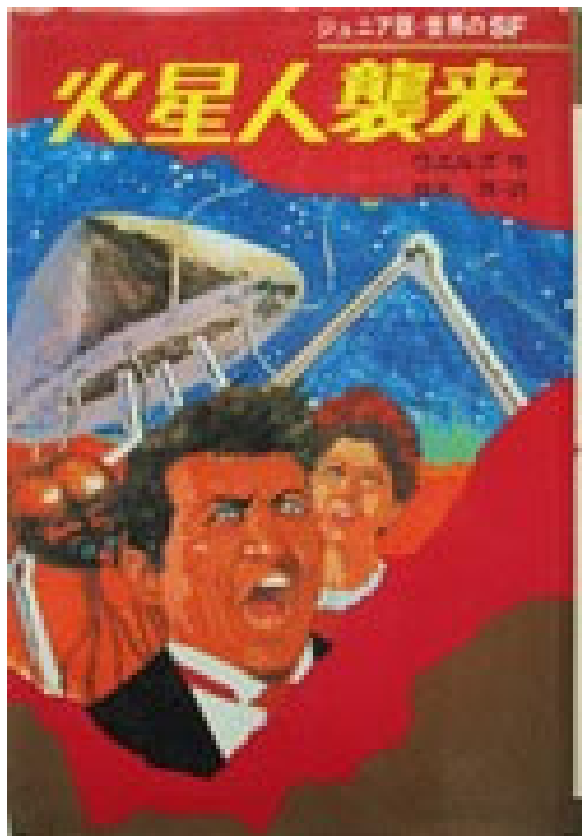


# 全体の流れ

- ①バイラル情報（流言）とマスメディア
- ②メディア研究の総力戦パラダイム
- ③「ポスト真実」時代とネガティブ・リテラシー

# ①バイラル情報(流言)とマスメディア

## 火星人襲来パニックは「事実」なのか？



うわさは万人を情報発信者に変える  
→ 「受け手=送り手」となる  
最古の「**バイラル(感染)メディア**≒SNS」  
としての流言

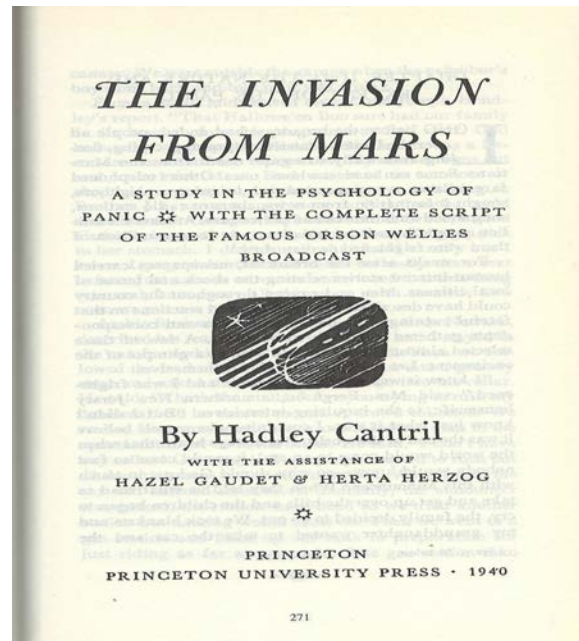
「批判力で冷静に対応」はパニック状態への処方箋か？

# マス・メディア時代は「火星人来襲」から始まった？

「古典的」メディア流言調査＝ハドレー・キャントリル『火星からの侵入－パニックの社会心理学』（1940年）＝1938年10月31日の出来事？

最近例＝「鶴見俊輔が入学してまもなく、ラジオで、H・G・ウェルズ原作、オーソン・ウェルズ演出の「火星人の侵入」が放送される。途中から聴く人が、ほんとうに火星地球を攻撃しはじめたニュースだと思い込み、逃げまわって死者まで出る騒ぎとなった。」（黒川創『鶴見俊輔伝』2018）

★災害時にパニックは起こらない。災害社会学の常識なのだが・・・



## 「パニックの不在」を検証したメディア史研究

- 当日の聴取率2%の番組で「全米に大パニック」？
- 質問紙調査で「驚いた」「不安になった」をすべて「パニックになった」とみなす統計処理の問題点。
- だれも損をしなかった「メディア流言」
  - ・この騒動でスターになったオーソン・ウェルズ
  - ・強力効果論で広告費が増加したラジオ業界
  - ・ニューメディア(ラジオ)批判ができた新聞業界
  - ・放送の国営化を阻止できたFCC(米国連邦通信委員会)
  - ・「頹廢した文明の事例」を示せたナチ宣伝省
  - ・戦時プロパガンダ研究の重要性を示す証拠を得た研究者。
- 「知的なリスナー」と「一般的なアメリカ人」の文化的断絶を戯画化した事件  
(D・グッドマン『ラジオが夢見た市民社会』2018)
  - 分断状況下の社会で、**第三者効果**により「火星人来襲」パニックが都市伝説化

もともと万人に公開の空間に電波を伝達せしめて居るので、これを一定の加入者のみに限って聴かせようといふのは根本的に間違つて居る。

(中略)

若しラヂオの放送と聴取とが十分に普及し便利なものに発達すれば、さしあたり新聞紙の印刷の如きは大部分やめることができる様になるであらうと思はれる。

(中略)

一体言葉に現したる思想をわざわざ複雑なる符丁にて記録し更にこれを読みて再び言葉に翻訳し其意味を了解するといふのは甚だしく廻りくどい方法で現代的ではない。

(中略)

レコードが今日の印刷書物の如くに軽便になり、蓄音機とラヂオ受信機とを両のポケットに携帯し得るになつたとすれば、我々は一切の文字を無用の長物として一掃することが出来、文字によらざる実質的文明は更に長足の進歩を見るに至る

(中略)

ラヂオは娯楽用の楽耳翁たるに止まつてはならぬ。一切の文明を負担する雷耳王を以て任じなければならぬ。

## ②メディア研究の総力戦パラダイム

宣伝学

広報学

広告学

Propaganda  
政治領域

PR  
社会空間

Advertisement  
経済領域

共同体原理

公共性

市場原理

State  
友敵(善悪)

Public Sphere  
真偽⇒美醜

Market  
利害(損得)

総力戦体制(市民社会⇒大衆社会)の合意形成

Intelligence

1918

→

Communication

1939

←

Medium

1923

Information

Mass communication

Media

情報は

マスコミュニケーションは

メディアは

敵情報告

プロパガンダ

広告媒体

# 和製漢語「情報」の成立

1876 酒井忠怒陸軍少佐訳『仏国歩兵陣中要務実地演習軌典』  
→敵情報告のrenseignementを「情報」と翻訳

1903 クラウゼヴィッツ『大戦学理』で森林太郎(鷗外)がNachrichtに「情報」を当てる  
→組織名称=1904年「俘虜情報局」

1915 齊藤秀三郎『熟語本位英和辞典』 intelligenceの訳語として「情報」が登場

1918 イギリスのMinistry of Informationを「情報省」と翻訳

1921 藤岡勝二『大英和辞典』でinformationに「情報」の訳語が登場

1936 『情報学概論』(外事警察資料第9輯)は、スパイ工作書

1937 内閣情報部 設置 = 「情報宣伝」を担当

1945 GHQのCIE(民間情報教育局) =civil information & education

disinformation = 偽情報、misinformation = 誤情報

informationは、すべて正しい情報なのか？

軍事情報は、正しくなければならない！



# メディア研究＝戦時効果研究の学祖たち

## リニア（線形）コミュニケーション・モデル

S (stimulus) ⇒ R (response)

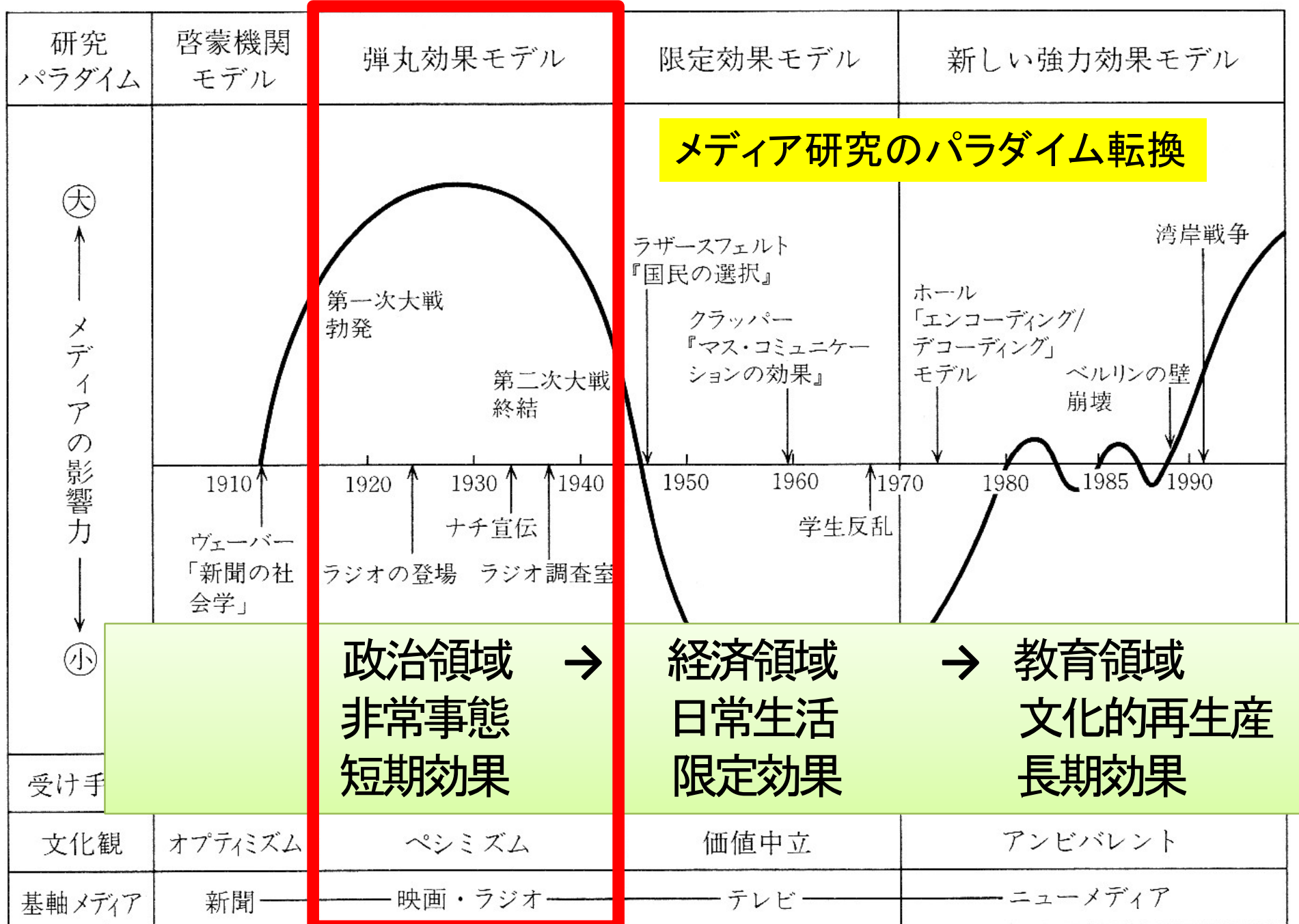
Who says What, in Which channel, to Whom, with What effect?

統制研究—内容分析—メディア分析—受け手分析—効果研究

Harold Lasswell—Kurt Levin —Carl Hovland—Paul Lazarsfeld  
情報政治学 集団心理学 実験心理学 社会統計学

**Cybernetics** 【通信と制御】 Norbert Wiener

source — message — channel — receiver



**メディア研究のパラダイム転換**

# 総力戦体制で成立したマス・コミュニケーション研究

=正しい情報informationを効果的に伝えるプロパガンダ研究

「うわさも誤報もなくならい日常」の社会的現実を直視しているのか？

→戦時デマ研究の**情報崩壊(劣化)モデル** =「正しい情報」がコミュニケーション過程で歪む  
**流言の拡がりの定式** =  $R = i \times a$  (オルポート & ポストマン 『デマの心理学』 1952)  
=流言 (Rumour) は受け手における当該情報の重要性 (importance) と裏付ける状況の曖昧さ (ambiguity) の積に比例して拡散する。

→総力戦体制の研究パラダイム上にある**「ポスト真実」論(情報崩壊モデル)**  
=まず真実のinformationがありメディアで歪曲されてdisinformationになる・・・ ?

「流言」のメディア論的定義 = 「あいまいな状況とともに巻き込まれた人々が自分たちの知識を寄せあつめることによって、その状況について有為な解釈を行おうとするコミュニケーション」  
(T・シブタニ 『流言と社会』 1966)

「情報崩壊モデル」ではなく、**真実へ近づく「情報構築モデル」**を考えるべきではないか？

## ★言論統制の歴史学が教える知見

=「正しい情報のみを伝える」という「真実」の要求は、検閲を正当化する根拠ではなかったか？

### ③「ポスト真実」時代のネガティブ・リテラシー

AIによる「真実の時代」の実現可能性  
＝「誤情報」を削除する確率論的リスク分析は実用化可能

→フェイクニュースが消去された社会は「快適な社会」だが、それは「理想の社会」なのか？

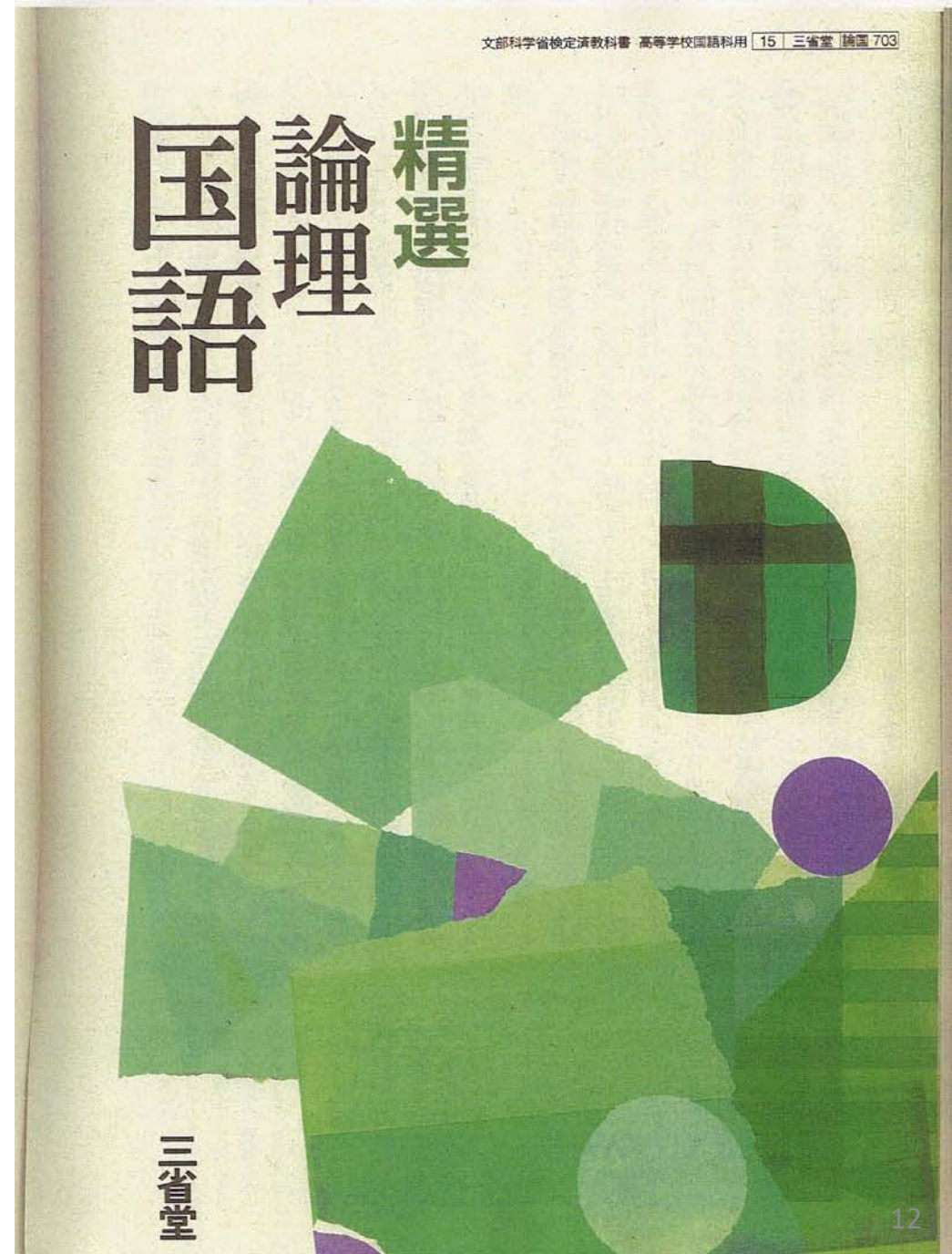
あいまいだから生きやすい社会ではないのか？

「AIの人間化」より現実的な「人間のAI化」

＝「快適」情報だけを求める人間の  
本性←認知的不協和

→工業化時代の「読みだけ」リテラシーから、情報過剰時代の中で必要な「読み書き」リテラシー

＝「情報の真偽」より「メディアの信疑」に比重をおける社会かどうか？



# ネガティブ・リテラシーの重要性

AI時代には「耐性思考」が必要だ メディア論者の視点から ～佐藤卓己

ネガティブ・リテラシーとは、情報の真偽を見分けることが容易ではない「あいまい情報」を、早く理解しようとせずにあいまいなまま留め置き、不用意に発信しない力。

ネガティブ・ケイパビリティ【負の能力】＝「わかりたがる脳」への抵抗力  
＝「性急に証明や理由を求めずに、不確かさや不思議さ、懐疑の中にいることができる能力」

「問題解決があまりに強調されると、まず問題設定のときに、問題そのものを平易化してしまう傾向が生まれます。単純な問題なら解決も早いからです」

（帯木蓬生『ネガティブ・ケイパビリティ—答えの出ない事態に耐える力』朝日新聞出版2017年）

私たちのメディア・リテラシー教育は「よい社会」を作ってきたか？

ネガティブ・リテラシー【消極的／負の読み書き能力】  
＝「ON／OFF、白／黒のデジタル思考への抵抗力」  
＝「あいまいな情報の中で事態に耐える人間力」

ネガティブ・リテラシーは「耐性思考」と呼ぶべきもの。当然ながら、根気が必要な古典の学びは「耐性」を強化する訓練として最適です。  
ただし、それがエリート主義となりやすいことが問題です。  
古典の読書は、生活に余裕がないと出来ないものだからです。

ご清聴ありがとうございました。